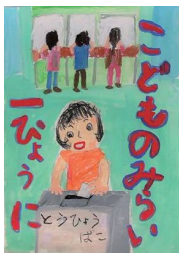


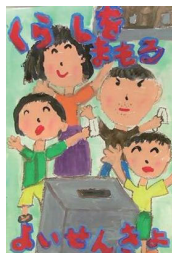
2019年度明るい選挙啓発 ポスターコンクール優秀賞作品



海老名市立海老名小学校 1年
浜田 涼菜



海老名市立上星小学校 1年
市川 明里



海老名市立杉本小学校 3年
山本 光姫



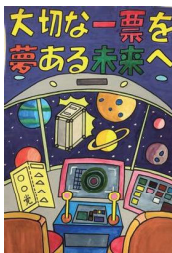
鎌倉市立深沢小学校 4年
所 竜誠



厚木市立飯山小学校 4年
橋本 理央



伊勢原市立大山小学校 5年
関西 凰次朗



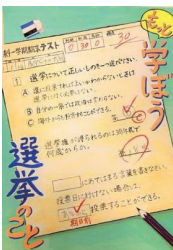
伊勢原市立成瀬小学校 5年
伊藤 愛華



愛川町立中津小学校 5年
湯原 妃夏



厚木市立厚木小学校 6年
塩川 綾乃



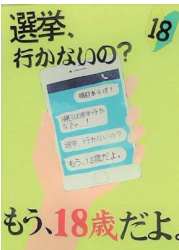
相模原市立鶴野森中学校 1年
岩根 乃瑛



秦野市立西中学校 1年
原田 心雪



厚木市立荻野中学校 1年
吉田 裕翔



川崎市立西高津中学校 2年
井上 慧音



川崎市立西高津中学校 2年
望月 大成



相模原市立鶴野森中学校 3年
黒川 冬実



茅ヶ崎市立鶴が台中学校 3年
飯島 心愛



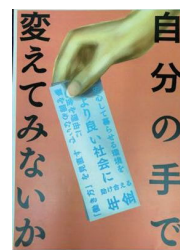
神奈川県立白山高等学校 1年
小関 まり



川崎市立川崎総合科学高等学校 1年
橋 奈月己



神奈川県立神奈川工業高等学校 2年
藤田 夏央



川崎市立川崎総合科学高等学校 2年
堀井 心楓



川崎市立中央支援学校高等部分教室 3年
浅野 真由美



川崎市立中央支援学校高等部分教室 3年
鈴木 柊



川崎市立川崎総合科学高等学校 3年
相馬 優波



川崎市立川崎総合科学高等学校 3年
平良 心海

あらまし

「明るい選挙啓発ポスターコンクール」は、明るい選挙を推進するために、小学校・中学校・高等学校等の児童生徒の皆さんを対象に、毎年行われています。

今年もたくさんの応募があり、どの作品も選挙の大切さを表現するため意匠を凝らしていました。そのため選考が難しく、審査員も審査に当たり大変苦労しました。応募された皆さん、御協力いただいた先生方に深く感謝します。

これからも、一人でも多くの皆さんが、政治や選挙に興味を持って、応募してくださることを期待しています。

応募状況

今年度は、195校から、2,077点の応募がありました。

学校	年度	2015	2016	2017	2018	2019
小学校		1,709	1,523	1,407	1,207	1,244
中学校		1,088	1,283	886	841	741
高等学校		39	85	50	73	92
合計		2,836	2,891	2,343	2,121	2,077

審査結果

令和元年10月3日に行われた県の審査会において、小学生9名、中学生7名、高校生8名の計24名の方が優秀賞を受賞されたほか、小学生21名、中学生18名、高校生7名の計46名の方の作品が佳作となりました。

審査員

櫻井 伸浩（神奈川県教育局指導部高校教育課高校教育企画室主査兼指導主事）

與那城 智栄子（知事室副主幹・広報デザインアドバイザー）

岩澤 和樹（かながわ選挙カレッジ実習生）

岡安 七海（かながわ選挙カレッジ実習生）

高木 舞子（かながわ選挙カレッジ実習生）

松本 耀平（かながわ選挙カレッジ実習生）

山口 拓真（かながわ選挙カレッジ実習生）

神奈川県選挙管理委員会委員

神奈川県選挙管理委員会書記長・書記長代理

審査講評

審査員代表 櫻井 伸浩

児童・生徒の皆さんが制作したポスターは、どの作品も自分の視点で「選挙」を捉え、伝えたい内容をまとめ、色や形、構図を駆使して表現していました。

一つひとつの作品を観ると、学年段階に応じて、選挙に対する向き合い方や考え方が変化していく様子が伺えます。

作者それぞれの視点で選挙について考え、真摯に向き合い、メッセージに造形性やユーモア等を交え、観る者に伝えたり、問いかけたり、考えさせたりするポスターを、数多く観ることができました。

今年度は県内の小学校、中学校、高等学校、特別支援学校から2,077点の応募があり、県の本審査で24点を優秀作品として選出し、全国審査に出品しました。その中から、印象に残った作品を紹介します。

- ・湯原 妃夏 さん(小5) 近い将来18歳になることを意識し「私は選挙に行く」など、かるたに書かれた一文は、作者の意気込み、抱負として伝わってきます。人物の大胆な配置、複数の視点も造形的な効果として、見る者を惹きつけています。
- ・岩根 乃瑛 さん(中1) 選挙の「テスト」が描かれています。問題を見ると正誤の中に、強調すべき項目が書かれていることに気づきます。ポスターのデザインを「テスト」の形にしたことは、作者にとって身近な存在であり、必ず学ばなければならない知識として捉えていることが伝わってきます。
- ・藤田 夏央 さん(高2) 対角線上に抑えた青の人物（高校生男子・女子）のシルエットを配し、「十八歳、自分のカードを切る。」という鋭いメッセージが添えられています。細い明朝体の文字は「十八」を唯一赤くするなど、高いデザイン性を感じる作品です。静かに、しかし強い意志を視覚的に伝えています。
- ・鈴木 柊 さん(高3) 投票用紙が投票箱に入れられ、文字の一部が黒く変わっています。投票における一票の意味を見事に視覚化しています。文字の濃淡は何を意味するのでしょうか。とても考えさせられます。

表現と鑑賞の側面から、選挙を自分のこととして捉え、考えを深める機会としての「明るい選挙啓発ポスターコンクール」が今後も継続し、素晴らしい作品が集まることを期待しています。